



春季リーグ戦の開幕を前に、2月中旬から3月中旬の間、同志社大学硬式野球部や兵庫県立大学硬式野球部など4団体が、愛南町でスポーツ合宿を行いました。2月19日には、総勢120人が来町した同志社大硬式野球部の歓迎レセプションが行われ、清水雅文町長が米3俵を贈りました（左写真）。また、初めてスポーツ合宿で本町を訪れた京都教育大学硬式野球部には、清水町長から記念品が贈呈されました。（3/9、右写真）



御荘文化センターで「愛南コーラスフェスティバル」が開催されました。10回目の節目を迎えた今年のコーラスフェスティバルには、宇和島市からの参加団体を含め8団体が出演し、美しい歌声を会場いっぱいに響かせました。（2/21）

「第43回えひめこども美術展」で特選・入選に選ばれた町内小中学生の絵画や書道などの作品が展示される「なんぐん教育美術展」が、御荘文化センターで開催されました。（2/19～26）



敵潜水艦の捕捉を行った「聴音室跡」や「砲台跡」、「兵舎跡」など旧日本海軍の遺構を残す「由良衛所」を、内海中学校の1年生10人が訪れました。当日は雪が降り冷たい風が吹くあいにくの天候でしたが、参加した生徒は歴史を学び、地域への理解を深めました。（3/1）



「なーしくん」を題材にして制作したふるさとCMが、「ふるさとCM大賞えひめ」で県知事賞を受賞したことを受け、なーしくんの知名度アップに貢献したとして、制作団体の愛南リポーターズに感謝状が贈呈されました。（3/10）(P4に関連記事)



あんなにうまい、こんなにも

写真 5 写真 6
3/ 6 愛南リポーターズのふるさとCMが準グランプリ

「ふるさとCM大賞えひめ」の審査会が松山市総合コミュニティセンターで行われ、愛南リポーターズ制作のCM『かっちゃんとの出会い』が、最高賞に次ぐ「愛媛県知事賞」に選ばれました。今年の審査会には、我がまち自慢を30秒に凝縮したCM31作品が出品され、審査委員による審査と参加団体の投票で入賞作品が決められました。

愛南リポーターズの作品では、「なーしくん」のしっぽにカツオの「かっちゃん」が食いつく“出会い”のシーンがコマ撮りアニメーションで描かれおり、その愛らしい内容と制作技術が高く評価されました。

準グランプリを受賞したCM『かっちゃんとの出会い』は、愛媛朝日テレビで年間100回放送される予定です。お茶の間に、愛嬌たっぷりの「なーしくん」をお楽しみください。

写真 4

楽しみながら体力向上

インターネットを通じて楽しく参加することで、幼児・児童の体力の向上とスポーツへの参加意識の高揚を図ることを目的とした「えひめ子どもスポーツITスタジアム」に町内各小学校が取り組みました。

各校チームは4月中旬から2月中旬までの期間内に様々な種目に挑戦し、ホームページ上で記録を更新。その中で、福浦小学校1～4年生で構成するチームが、半径16mのコースを半周(約50m)ずつ走る「チームリレー(第2学年の部)」で愛媛県1位に輝きました。

EOWN PLYA

本日!海日和!! vol.65 「入学式」



キンメドキの群れ

4月になると、あちらこちらで入園式や入学式が行われる。魚の中にも、ある程度の大きさになると集団で生活するものがある。

キンメドキもそうだ。群れで生活する理由は、捕食者に襲われにくくなるからだ。あまりの数の多さに、捕食者は一匹に狙いをつけることができなくなってしまう。この写真を撮影したときも、私の目の前には、魚、魚、魚……。どんな構図にすればいいのか、どこにピントを合わせればいいのか、あれこれと迷っているうちにピンボケ写真の山となってしまった。

群れになることの欠点もある。遠くからでも見つけやすい。キンメドキも人間に見つかると、大きな網で一網打尽にされ、あわれ、カマボコ材料になってしまう。小さなキンメドキは、ほかの生きものの餌となり、生態系を底辺で支えている。我々、人間が独り占めしてしまわないように気を付けなければならない。

(撮影地:鹿島)

愛南サンゴを守る会 西尾知照



写真 1
2/ 23 練習の合間にホッと
一息 ~婦人会がお接待~

南レク城辺球場で春季キャンプを行う同志社大学硬式野球部の宿舎を町連合婦人会(森岡眞由美会長)の有志7名が訪れ、特製のじゃこ飯とぜんざいで「お接待」しました。

すっかりお馴染みとなったこの「お接待」を楽しみにしていた部員も多く、ぜんざいを何杯もおかわりするなど、舌鼓を打ちながら賑やかに交流を深めていました。

3月5日には、同志社大学軟式野球部にも同様のお接待が行われました。

写真 2
2/ 28 防災リーダー
育成をめざして

自主防災組織の活性化と人材の育成を目的に、「自主防災リーダー育成研修会」が城の辺学習館で開催され、町内の自主防災会員が参加しました。

研修会では、講師の笹崎浩丸さん(岩手県陸前高田市、現在は松山市在住)が東日本大震災で津波にのまれながらも命を取り留めた体験を基に、「非常時に大切なのは強力なリーダーシップ」などと参加者に訴えました。笹崎さんの貴重な体験談は今後の自主防災活動に役立つ内容が多く、参加者は熱心に聞き入っていました。

写真 3
2/ 29 外国出身者が
漢字のレッスン

愛南町で暮らす外国出身者を対象にした漢字教室が、平城交流センターで行われました。

教室には7人の“生徒”が参加し、講師を務めた東京大学国際交流室の向井留実子室長や大阪産業大学の新矢麻紀子教養部教授のほか住民有志が、交流を深めながら漢字の読み書きを教えました。

参加した外国出身の皆さんは、「漢字を習う機会がないので、とても助かる」と笑顔で話し、熱心に漢字を学びました。